

**「大妻女子大学人間生活文化研究所の研究と歴史」
P181より抜粋**

『大妻女子大学人間生活文化研究所の研究と歴史』，
大妻女子大学人間生活文化研究所，
2019，
<https://www.ihcs.otsuma.ac.jp/ebook/book.php?id=63>
(参照 2020-06-09)

内閣府青年国際交流事業の成果

下田 敦子 大妻女子大学人間生活文化研究所 専任講師

日本政府が行うミャンマー連邦共和国への青年派遣事業が2017年に10年ぶりに再会された。内閣府から研究所への協力依頼があり、下田専任講師がこの派遣団を率いることとなった。皇室外交の一環として始まった事業の第24回国際青年育成交流事業である。正式名称は日本青年ミャンマー派遣団である。団員は全国の大学や企業などから優秀な青年が選考され、総勢は副団長を含めて14名で、現地でミャンマーの青年が10名加わる。期間は2017年9月9日から25日。民主政権が成立した直後の公式の青年派遣事業に両国関係者からは大きな期待が寄せられた。ミャンマー側のカウンターパートは教育省高等教育局長である。公式の訪問先はミャンマー教育省高等教育局、ミャンマー商工会議所、日本国大使館、JICAミャンマーオフィス、日本・ミャンマー・ユースリーダーズフォーラム、ヤンゴン首相府・首相官邸、FAME製菓、旧ビルマ省庁舎、サレ僧院学校、バガン漆塗り技術専門学校、バガン考古学博物館、マラナマ僧院学校、ヤンゴン経済大学、ヤンゴン技術大学、マンダレー大学である。日本からの公式の派遣団は激動のさなかにあるヤンゴン、マンダレーを訪問し現地マスコミでも大きく報じられた。なお後日、この訪問について皇太子殿下夫妻にお会いして報告した。



日本青年派遣団とミャンマー青年、コーディネーターの方々と、ヤンゴン大学のシンボルツリーの前で。(後列右から4人目・下田)